

長岡地区租税教育推進協議会長賞 優秀

私たちの生活を支える税金

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 外山 琴理

私は、税金の意義や役割を知らない頃、なぜ消費税を払わなければいけないのかと思っていました。しかし、税金とは豊かで安心した暮らしができるようになるための費用であることを知りました。身近な税の使いみちとしては、教育です。国民すべてが平等に教育を受けられるように、教科書や机やいす、校舎の建設や修理という大切なものを税金によって賄われています。また、図書館や警察・消防の活動費やごみの処理や医療・介護などで私たちを支えてくれています。その他にも多くの税金があります。それは、公平・平等に負担するため工夫です。例えば友だち三人で食事に行き、みんな色々な料理を分け合って食べたときの支払い方法を考えてみます。三人で均等に割ったり、たくさん食べた人は多く、少ししか食べていない人は少なくしたり、お小遣いの量で決めた方法が考えられます。どれも公平の方法ですが、一つの方法では完全な公平にはなりません。だから、適切な課税方法を採用し、バランスよく組み合わせることが、公平に負担するということになります。もし、税金が無くなったら今まで当たり前前にできていたことができなくなってしまう

います。そこで、これからの社会と税金について考えてみると、少子高齢化が到来すると予想されます。少子高齢社会の問題の一つは社会保障の費用が増えることです。社会保障とは、国の経済活動である国の財政の歳出の三分の一と高い割合を示すものです。また、安心して生活していくために必要な公的サービスのことで、医療・年金・福祉・介護・生活保護のしくみのことです。老後の安定した生活や健康で文化的な社会をつくるため、社会保障が増加し、お金が足りない状況です。そこで政府・国の方々が考えた最善の改善方法は消費税の増税です。消費税は、景気や人口構成の変化に左右されにくく税収が安定しており、すべての世代に公平であり、高い財源調達力があります。なので、この方法はとても効果的であり、よりよい方法です。少子高齢社会の他の問題は、その費用を負担する働き手が減っていくことです。すると、一人ひとりの負担が重くなります。

これからの社会と税金について、国の財政の歳入を見ると、三分の一が公積金です。これは、国の借金のため、将来世代が負担し多くなるほど、将来の財政が行き詰まってしまうです。国債に依存する日本の財政を改善することが問題となっています。

政府・国の方々は、国民の豊かで安心した健康で文化的な生活を送るために、私たちが「税金」という形でみんなでの生活をつくりあげています。改善や工夫を行い、当たり前なことすぎて気づかないこともあるけれど、より住みやすく充実した生活が送られていると思うので税金は私たちの生活を支えるとても大切なものだと実感しました。